

## 最 終 試 験 の 結 果 の 要 旨

神奈川歯科大学大学院歯学研究科 口腔衛生学講座 石田 直子 に  
対する最終試験は、主査 木本 茂成教授 、副査 向井 義晴准教授 、  
副査 山本 龍生准教授 により、論文内容 ならびに関連事項につき 口頭試問 を  
もって行われた。

その結果、合格と認めた。

主 査 木本 茂成

副 査 向井 義晴

副 査 山本 龍生

論 文 審 査 要 旨

3歳児のう蝕の有無とその影響要因の地域格差

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

口腔衛生学講座 石田 直子

(指 導： 荒川 浩久 教授 )

主 査 木本 茂成 教授

副 査 向井 義晴 准教授

副 査 山本 龍生 准教授

## 論 文 審 査 要 旨

学位申請論文である「3歳児のう蝕の有無とその影響要因の地域格差」は、神奈川県14市の3歳児健診時の質問紙データから、う蝕とそれに影響を与えると考えられる生活習慣等の要因の地域格差の有無、および地域ごとでう蝕に影響を与える生活習慣等のリスク要因の種類に違いがあるかを探索した研究であり、14市間にう蝕の地域格差が存在し、そのリスク要因は市別に特徴のあることを示した論文である。

分析データは、2011年の県民歯科保健実態調査のうち、無作為抽出された14市に居住する4,047人（男児2,055人、女児1,992人）の3歳児の質問紙調査結果である。採用した統計手法は、う蝕および生活習慣等の要因の地域差の有無と市ごとにう蝕リスク要因に違いがあるかを $\chi^2$ 検定、質問内容の回答項目を2水準化したものを説明変数、むし歯の有無を目的変数とする名義ロジスティック回帰分析であり、問題はないと判断した。また、個人情報には県民歯科保健実態調査委託契約書に基づき厳重に管理されるとともに、神奈川県歯科大学研究倫理審査委員会の承認を得ており、研究の倫理的配慮も十分である。

研究の背景に、個人格差と地域格差が存在しているう蝕のリスク要因としては社会経済的要因の影響が大きいことが、地域での保健指導に活用することを念頭に、生活習慣等の要因による影響を追求したものである。今までに同一県内においてう蝕とリスク要因を分析した例はなく、新規性の高い研究であると判断した。分析に用いた質問内容は、う蝕の有無と性別、出生順位およびう蝕に影響を与えると考えられる生活習慣等であった。その結果、14市間にう蝕の地域差を認め、生活習慣等の要因については、噛みごたえのある食べ物の摂取、テレビやビデオを見ながら食事をする習慣、甘いお菓子の摂取、甘い飲み物の摂取、フッ化物配合歯磨剤の使用に地域差が認められた。ロジスティック回帰分析の結果、14市全体で有意なオッズ比が得られたう蝕の有無に影響を与えるリスク要因は、性別、出生順位、テレビやビデオを見ながら食事をする習慣、甘いお菓子

の摂取，甘い飲み物の摂取，保護者の仕上げみがきであった。しかしながら，市別の分析では9市でリスク要因として出生順位等に有意なオッズ比が得られたが，5市においてリスク要因は検出されなかった。このように，有意なリスク要因は全体のものとは異なり，市ごとに特徴があり，今後の地域歯科保健活動において，地域ごとにリスク要因を分析する必要性のあることを強調するものと高く評価した。

質疑応答では，質問紙の回収率について全体で約86%と回答され，十分であると判断した。う蝕の多寡とリスク要因の関係については，最もう蝕の多い市においてはリスク要因が検出されない等，関連はみられなかったとの回答であった。さらに，噛みごたえのある食べ物の摂取やテレビやビデオを見ながら食事をする習慣がどのようにう蝕発生に関わるのかという質問に対しては，直接的な影響ではなく，保護者の教育レベルを背景とする社会経済的要因につながるとの回答であった。以上の結果，本審査委員会は論文内容および関連事項に関する口頭試問にて十分な回答が得られることを確認し，申請者が博士（歯学）の学位に十分値するものと認めた。